



原口良介（はらぐち・りょうすけ）
唐津市消防本部消防署救急第一係消
防士長。平成21年4月消防士拝命。
令和元年7月救急士運用。趣味はカ
メラ、動画編集。

応急処置アップデート
THE MOVIE 動画編集
原口良介さんインタビュー

応急処置の ポイントを コンパクトに わかりやすく 伝えたい

現在、小誌連載中の「応急処置アップデート THE MOVIE（監修：玉川進）」にて、動画編集を担当されている原口良介さん。「応急処置の方法がわかりやすい」「動画がとても参考になる！」という声が、数多く編集部に寄せられています。そこで、原口さんに、応急処置について養護教諭が押さえておきたい基本的なポイントをはじめ、連載への思いや養護教諭へのメッセージなどについて伺いました。

取材・構成：ひだいすみ（スタジオ・ペンネ）



動画で情報発信をしたきっかけ

——ふだんは、救急救命士として活動されているのですね。

原口良介（以下、原口）はい、私は消防士です。消防士の仕事は、火事よりも救急での出動件数が圧倒的に多いのです。そうして救急の現場に何度も携わるうちに、その分野のプロフェッショナルになりたいと思うようになり、救急救命士の資格を取りました。ですから、ふだんは消防署に勤務しており、救急車に乗って病気やケガを負った人を救急・治療に最適な病院へとすみやかに搬送するのが仕事です。もちろん、消防署職員として、消火器を調べる業務や来署される方への対応もしますし、日頃から火を消す訓練や救急の訓練も行っています。

——動画での情報発信に取り組まれたきっかけは？

原口 消防関係の専門雑誌を通じて、玉川進先生（「応急処置アップデート THE MOVIE（監修者）」

と出会いました。「趣味はカメラ、動画編集」という私のプロフィールが玉川先生の目に留まったのが、今の連載のきっかけです。もともと動画編集には興味がありましたが、配信するのは、初めてでした。——初めてとは思えないほどクオリティが高いと評判です。ふだんから、「こんなふうに動画を作ったら、わかりやすいのでは？」という思いがあったのでは？

原口 救急救命の講習会などで心配蘇生法やAEDの使い方などを人前で話す機会もありますが、その他の応急処置については話す機会はあまりありません。動画なら、幅広い人に見てもらえるので、大切な情報を伝えられるという思いはありました。

——養護教諭から、コンパクトでわかりやすい動画が参考になるという声が多く寄せられています。

原口 うれしいですね。私としては、もっと時間をかけた動画も配信したい気持ちはあるのですが、今は1分以内という形で配信していま

す。現在、動画を見る人は、パソコンではなくスマートフォンを使うケースが多いと思います。1分間にまとめた動画なら、空いた時間にパパッと見て復習することにも役立つでしょうし、いざケガが発生して、頭が真っ白になってしまった場合でも、すぐに見られます。——動画づくりの作業は大変では？

原口 同僚のお子さんに協力してもらっていますが、その子たちの集中力次第という場合もありますね（笑）。撮影は30分から1時間、編集作業も含めて、動画が仕上がるまで、だいたい一日です。

——周りの反響は？

原口 最近は、「うちの署でも動画を作れないだろうか」という相談やお問い合わせをいただくこともあります。今後、救急救命士として伝えたいことをもっと発信していきたいと思っています。

救急救命士と養護教諭の意外な共通点

——119番で呼ばれて学校に行くケースは？

原口 熱中症で複数人の患者さんが出たときや、体育の時間のケガなどで学校に向かったことがあります。

——学校の対応はいかがですか？

原口 養護教諭だけでなく、多くの先生方に対応していただけて助かっています。学校から保護者への連絡がすばやく入っていて、救急車が到着する前にすでに保護者の方がいらっしゃる場合もあります。子どもの場合、病院で治療す

る際には保護者の承諾が必要ですから、学校側のすばやい対応は助かります。

——学校としては、119番で救急車を呼ぶことに迷うケースもあると聞きます。そうした場合、どうしたらいいのでしょうか？

原口 昨今、救急車の過剰呼び出しが問題になっていますが、私個人としては、迷ったときは、できるだけ119番していただきたいと考えています。迷わないケースなら、養護教諭の先生方がしっかりと状況を見極めて対応していただいているはず。実際、我々より養護教諭のほうが医療の知識は豊富だと感じていますし、みなさん、実にしっかりと勉強し、必要な行動をしていらっしゃいます。そもそも、私たちが養護教諭も、「子どもを救いたい」という気持ちを持った「仲間」ですから、ぜひ協力し合いたいと思っています。

——しかし、大きなケガや事故では、救急処置について、不安に感じる養護教諭も多くいます。

原口 それは、養護教諭が学校で唯一の専門職だからだと思います。一人で重責を負うのは孤独だし、プレッシャーがかかりますよね。実は、私も3人のチームで唯一の救急救命士という場合も多々あるので、その気持ちはよくわかります。救急車には、救急救命士が1人以上乗ることが望ましいとされ、資格を持つ複数のスタッフが乗り合わせることもありますが、たいてい救急救命士はチームに一人です。——プレッシャーを克服するには？

原口 資格や年齢を問わず、チーム内ではお互いに「大丈夫か？」

と声をかけ、それぞれに思ったことや感じたことを口に出すようにしています。ときには「今日のこの対応はマズかったかな」「ああしたほうがよかったかも…」という愚痴や反省も、素直にぶつけ合います。養護教諭の皆さんも、そうした話ができる場があるといいなと思います。

——よい仕事をするには、コミュニケーションは欠かせないということですね。

原口 どんな仕事でも、円滑なコミュニケーションは欠かせないと思います。消防士や救急救命士の仕事はある意味で体力勝負とも言えますが、ベテランにはベテランなりの豊富な経験や培ってきた技術があったり、優れたコミュニケーション力を生かしてどうしてケガが起きたのかなどの情報を、会話から上手に聞き取ったりする人もいます。若手もベテランも、お互

いに刺激しあえるといいと思います。

養護教諭への応援メッセージ

——連載を通じて、読者に伝えたいことは？

原口 出来るだけわかりやすいように、動画をまとめていきたいと思っています。さらに、もっと詳しい情報を満載した長めの動画も発信していきたいです。そうした情報が、皆さんの役に立てばうれしいです。——養護教諭にメッセージをお願いします。

原口 養護教諭は、学校で唯一の医療的な知識も備えた専門職として、重い責任を感じる人も多ようです。だからこそ、SOSは必要です。繰り返しになりますが、迷ったときは119番してください。「子どもの命を守りたい」という養護教諭の思いを同じくする我々の仲間がすぐに駆け付けます！

